

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

4頁 乾隆神父のイタリア留学記(2)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2020年 司教年頭書簡を読む(7)

環境危機と次世代への責任

人間の生産と消費活動によって地球が急速に侵され、環境危機は待たなしの状況にあります。それは、私たちの想像以上です。

貧困層は、環境の悪化にもっとも大きな影響を受けます。「あらゆる環境破壊によるもっとも重大な影響は貧困に苦しむ人が被ることを、日常生活と科学的研究の双方が示しています」(回勅『ラウダート・シ』48)。私たちは、地球とその貧しい人々の悲惨な悲鳴に、大胆に対応しなければなりません。

私たちが破壊している地球は、人類への神からの贈り物です。正確には、創造の初めに神の霊(ルア)によって聖別された家であり、神が私たちの間に宿られた場所です(ヨハネ1・14参照)。教皇ベネディクト16世は、『地球』：は中立的な現実ではなく、人間の本能に従って無関心に使用できる単なる問題ではなく、神の創造(使徒的勧告 Sacramentum Caritatis 6参照)「だと書いています。

まだ希望があります。環境危機による最悪の影響を、私たちの行動によって回避する時間はまだあるのです。「人間は、一方では、最悪なまでに身を落とす可能性がありつつも、他方では、心的また社会的な制約があるうとも、自らを超えて立ち上がり、善なるものを選び直し、新しいスタートをきることができます」(回勅『ラウダート・シ』205参照)。

私たちは人間の持つ最良の財産である愛、思いやり、寛大さの生来の美德を「更新」しなければなりません。人の最



8
2020

大のよりどころは、神が人を見捨てず、一人にしないということです。神は間違いない人と、そして地球と団結しており、神の愛は常に新しい道を見つけてくることにつながります。だから、教皇フランシスコは問いかけます。「わたしたちは、後続する世代の人々に、今成長しつつある子どもたちに、どのような世界を残そうとするのでしょうか」(回勅『ラウダート・シ』160)。この質問は、ただ環境に関してのみ問われているのではなく、被造物の存在意義そのもの、また社会生活の根底にある価値に対する根本的な問いかけです。

創造を守る義務は、善意あるすべての人々に課せられています。そして、環境問題の精神的なルーツに気づくようにすべての人に呼びかけます。それにより、私たちは協力して明確な答えを出すことができるようになるのです。

私たちは、次の世代のために、どうすれば美の種を蒔く責任をはたすことができるか、真剣に考えなければなりません。そしてすべてのいのちを守るために、変化を起さなければいけません。

環境危機と次世代への責任と、私たちがのつながりを、もっと知るべきです。神が創造されたものを守るだけではなく、経済、政治、コミュニティへ参加し、地球と人類の未来について考え、行動しましょう。

もし私たち一人ひとりが地球を守るために新しいライフスタイルを取り入れ、消費習慣を変化させたならば、今と大きな違いを生む可能性があります。共にがんばりましょう！

(カマチョ・アントニオ)

回勅「ラウダート・シ」 考察のための「特別年」が始まる

5月、回勅「ラウダート・シ」発表から5年を迎え、教皇フランシスコは、同回勅をめぐる特別年の開始を告げられました。そして、回勅「ラウダート・シ」は、地球と貧しい人々の叫びへの関心を喚起するためのものと説明されました。

来年2021年5月24日まで行われる、回勅「ラウダート・シ」をめぐる特別年への参加を通し、回勅を考察すると共に、わたしたちの「共通の家」と最も弱い立場にある兄弟姉妹たちの保護に取り組むよう呼びかけられました。

すべてのいのちを守るため

『教皇フランシスコ訪日講話集』を読む⑤

わたしは平和の巡礼者として、この場所を訪れなければならないと感じていました

広島平和記念公園でのメッセージです。このメッセージは祈りで始まり、祈りで結ばれます。平和を祈り求める巡礼者の言葉です。

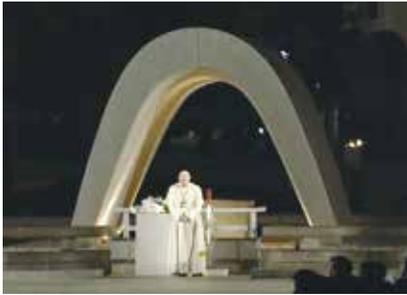
始まりは「あわれみの神、歴史の主よ、この場所からわたしたちはあなたに目を向けます。死といのち、崩壊と再生、苦しみと憐憫(れんびん)の交差するこの場所から」。結びは「主よ、急いで来てください。崩壊があふれた場所に(中略)。平和の君である主よ、来てください」。

毎年8月15日に催される平和の集いに、こんな心の底からほとばしり出るような祈りの言葉を聞いたことがあるでしょうか。そこで語られる言葉は「唯一の被爆国日本」、「ノーモアヒロシマ」、「犠牲で亡くなられた方の魂のために哀悼の辞を申し上げます」、そして「黙祷」。今、広島を訪れると、そこはあまりに

も美しく公園化され、75年の月日がたつとそれは思い出化され、記念日化され、観光化され、儀式化されていくような虚しさを憶えます。多くの人が広島平和記念資料館を訪れますが、何か素通りのような感じがいたします。

私は20年前、南京大虐殺記念館に連れて行ってもらったことがあります。その時私は足が釘付けになり動けなくなりました。その時「トマが迷子になった」と心配した友達が、探しに来てくれましたが。

「記念」が自分の物になるには、大いにイマジネーション(想像力)に働いてもらわねばなりません。



教皇、原爆死没者慰霊碑の前で黙禱
広島「平和のための集い」にて

教皇様もお話の中で、「思い出し、ともに歩み、守る」とおっしゃっています。(真実を知るためには、出来事の「コト」を読むところ(目と耳)が必要なのです。)

「記念する」ということは、単に思い出すことではなく、それと「同じこと」が「今、ここで」再現されているということとです。ミサの中で「これをわたしの記念として行いなさい」という言葉があり、それに対し「主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで」と信仰告白をします。ですからミサのたびごとに、あの最後の晩餐の記念を再現していることとなります。

「もう繰り返しません」と言うのは「同じことをしません」ということなのだもしたら、原爆記念日、終戦記念日とは「もうあの恐ろしい戦争は二度と繰り返しません」ということです。では私たちは、これを自分の信仰の表明としてしているのでしょうか。

教皇様は「戦争のための最新鋭ですさまじい兵器を製造しながら、平和について話すことなどどうしてできるでしょうか」と問われます。「平和は、それが真理を基盤としていないなら、正義に従っ

て築かれないなら、愛によって息づき完成されてないなら、自由において形成されてないのなら(聖ヨハネ23世回勅 地上の平和)、単なる『発せられることば』に過ぎなくなる」と。

しかし、この問いに完全に答えることは、人間の力をはるかに越えています。だからこそ謙虚に、神のあわれみと力に信頼して祈らねばならないし、私たちができる限りの努力をして応えなければいけないのです。

平和は神の賜物、イエス・キリストの死と復活を通して与えられたもの(ヨハネ14・27、20・21〜23)「聖霊の賜物」です(ガラテア5・22)。ですから、恵みとして与えられるものであるとともに、祈り求めるべきものです。

「主の平和」は、単なる挨拶ではありません。復活された主の恵みであり、聖霊の賜物です。平和のために祈らねばなりません。だから教皇様は、謙虚にひざまずいて祈られたのだと思います。そのような心の貧しいへりくだる人に、神の国の平和は告げられるのです。

(村上透磨)

乾隆神父のイタリア留学記(2)

京都教区司祭 大塚乾隆

8月号の教区時報の記事は6月末が締切です。当初の予定だと6月末で語学学校が終わり、7月半ばに帰国して…。しかし、コロナウイルスの影響で全ての予定が変わりました。それは、夏の予定だけではありません。秋からの進学先も変わってしまいました。

4月20日の福音で、ヨハネ福音書3章8節「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない」が読まれました。そのとき、「まあ、どうなるかわからないけれど、復活節が終わる聖霊の降臨までの間は、ヨハネ福音書を聖霊の観点で味わってみよう」と思ったのです。どういう気づきがあるかわからないけれど、聖霊の導きに身を委ね、ワクワクしながら過ごしたいと思っていました。その数日後、司教様からメールが届き

ました。10月からの進学予定先であったウルバノ大学が、コロナ禍で今年是新入生の受け入れをしないことになったのです。心に響いた第一声は「えらいこっちゃ」でした。しかし、司教様はすでにいくつかの選択肢を考えておられました。私は決して投げやりではなく、「まあ、こういう状況やから何がどうなるかわからへんし、神さまが良いようにしはるやろ。聖霊の風に乗っていこう」と思いました。もはや自分の努力や頑張りでどうにかなるわけではありません。「秋からのことは横に置いて」、今するべきこと、イタリア語に取り組もうと頭を切り替えたのです。

京都にいったん戻るか、ペルージャにもう1年留まるか、ローマで別の大学を探すか、いくつかの選択肢がありました。結果的に、多くの方々の助けを得て、今年の秋からのローマでの大学と滞在先を探すことができました。もちろん日本を出発する前は、こんなことになるなんて想像もしていませんでした。でも、これが神さまの用意された道なら、きっと大丈夫だと信じています。

今回、この話をしたのは、いかに私が

ラッキーだったかを言いたかったからではありません。全ては恵みであることを分かち合いたかったのです。「こうあるべきだ、こうしたいという思いを横に置いて、聖霊の風を任せるということは、自分の思い描いていた道を歩くことではない。でも、それで良いんだ、それが良いんだ」ということを改めて私は感じました。

今思えば、どうして今年の復活節に「聖霊の風」を意識したのでしょいか。これも神さまからの恵みだと思っています。ウルバノ大学からの手紙を受け取る「地ならし」をしてくださったのだと思います。弱い私のために、ちょっとずつ神さまが手を整えてくださったのでしよう。



ペルージャの街

聖書講座のCDを

聞きませんか

聖書講座の書籍を

読みませんか

京都司教区聖書委員会

いつも聖書委員会の活動にご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。

今年度の聖書講座は、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まる気配が見えないため、中止せざるを得ませんでした。

1986年に「聖書が好きになる講座」として始まったこの聖書講座も、年に2期行っていたこともあり、今年度の講座でシリーズ37となるはずでした。

過去の資料を振り返ると、多くの方々がこの講座の準備のためにかかわってくださり、全国から講師の神父様やシスター方に来ていただき、開催してきたことがわかります。そして何よりも講座を受講してくださる方々の熱い思いによって、35年間も続いてきました。

今年度は聖書講座がお休みとなり、残念に思っておられる方も多いと思います。これは振り返りのチャンスです。もう一度お聞きになりたい講師のお話はありますか。

聖書講座をご存知なかった方は、このページに出会われたのは学びのチャンスです。CDをお聞きになり、聖書の学びを深めることができます。お試しに聞いてみたいと思われる講師のお話はありませんか。一覧表(教区のHPに掲載)をご覧ください。

聖書講座を書籍にした聖書講座シリーズもあります。こちらもお送りすることができます。

今夏はご自宅でゆっくり聖書を読み、聖書講座のCDを聞き、聖書講座の本をお読みになりませんか。



聖書講座 CD 2008年度以降の聖書講座のCD 1講座500円

CDの一覧表は、京都教区のホームページに掲載していますが、必要な方は送付可能です。

聖書講座シリーズ 書籍 下記ものは在庫あり

- ①聖書に見る女性たち……………¥1100
 - ②出会いと回心一神に還る……………¥1400
 - ③ヨハネ福音書を読む……………¥1400
 - ④信仰に生きる一典礼歴に沿って… ¥1400
 - ⑤マタイ福音書を読む……………¥1400
 - ⑥パウロの手紙を読む……………¥1200
 - ⑦キリストの祭司職へ招かれているわたしたち……………¥1400
 - ⑧使徒言行録を読む……………¥1400
- 著者等詳細はHPをご覧ください。

※CD、書籍とも、下記のメール・ファックス(申込書はHPよりダウンロード可)・お電話にてご注文ください。

※CDは作成にしばらくお時間がかかります。送付はレターパックなどでお送りいたします。

京都司教区聖書委員会 TEL/075-366-6609 FAX/075-366-6679 mail/seisho@kyoto.catholic.jp

大塚司教の8月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、スケジュールの変更がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

8月のお知らせ

教 区

信仰教育委員会 教会学校研修会

日 時：29日④ 10:00～11:30
講 師：小立花 忠師・ウィリアムS. B. 師
テーマ：「今、できる教会学校
～新型コロナウイルス感染症対応～」
対 象：教会学校リーダー、および18歳
以上で教会学校の活動に関心のある方
問合せ：FAX.075(366)6679

※今回はオンラインで行います。案内・申込方法は各小教区あて、一斉メールにて配信済です。

聖書委員会 / Tel.075(366)6609 ㊦㊧

よく分かる聖書の学び

当面の間休止

再開が決まり次第、教区のHPに掲載

広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛メール honbu@kyoto.catholic.jp または Fax.075(366)6679 に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※ 10月号の原稿締切り日は 8月26日㊦です。

◇新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため以下の行事は中止

8月5日～7日 教区中学生広島巡礼
9月・10月に予定していた合同堅信式

◇次の献金は移動します。

聖金曜日の「聖地のための献金」

9月13日に移動

6月28日の「聖ペトロ使徒座への献金」

10月14日に移動

5月17日の「世界広報の日の献金」

11月15日に移動

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：2日④ 14:00 / 30日④ 14:00
洛星宗教研究館

22日④ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：9日④ 15:30～17:30

(ZOOMでも参加できます)

対 象：15歳～35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

KBS京都 ㊦～㊧ 朝5:55 ㊦ 朝5:15

ラジオ関西 ㊦～㊧ 朝5:00 ㊦ 朝6:05

8月のテーマ「心を一つに」

青年センターは、コロナウイルス感染症拡大防止のため、引き続き休館しています。そのため、今後の青年活動についてはオンラインで話し合い、企画を進めています。しかし、オンラインでの作業には限界があります。青年センターのお掃除や換気、郵便物の確認、チラシや機関誌の配布…。そこで、わたしたちは考えました。青年センターの機関誌「じよばに」をオンラインで公開しよう！ と。

★「じよばに」は次号よりHPにて公開し、更新します！★

小教区などに置いていただいていた「じよばに」は、しばらくの間、休刊いたします。

そして次号より、最新の記事は青年センターHPに公開していきます！

リアルタイムな青年の声、神父さまの声、連載している記事などを、いつでもどこでも見ていただけるよう考えています。7月以降、日曜日に更新する予定です(隔週または隔月になる場合があります)。ぜひご覧ください。

三重地区運営委員・伊勢教会 濱口 聡子

青年センターあんでな